

自治基本条例（全体像検討用素材） どこでも議論すること

●全体像の考え方（基本的骨格）について

前 文

1. 基本的な考え方
〔目的・理念・原則など〕

○

○

- 新城市の自治をよりよく進めていくための、みんなが共有できる芯になる考え方とは？。
 - 骨格（背骨）になる。
- 持続可能なまちづくりに、何が足りないか。何が必要か。
- 住んでよかった、住み続けたいというまちをつくるには。

2. 市民

- ・まちづくりの担い手としての市民、様々な立場、役割の違い
(住民、子ども、若者、在勤・在学者、外国人、事業者など)

- 市民とは誰なのか。市民の範囲。責任や役割に違いがあるのか
- 新城のまちの実際から考える。新城には、どういう人がいて、どういう人が支えているのか
- 今は、十分ではないが、大いに担ってほしいと思う市民は

3. 地域コミュニティと市民活動（npo）

- ・任意団体だからといって、放置しておいてよいのか
- ・任意団体という位置づけが、限界になっているのか
- ・両者の連携？

■自治の基本として、取り上げる意義・必要性があるのか

- 新城のまちの実際から考える。新城の現状、そう遠くない未来は・・・。
- 持続可能なまちにとって・・・。
- こうしたバックアップがあれば、元気になる（だれのバックアップ？）

4. 議会

- ・議会・議員の重要性（二元代表性のよさ）
- ・それぞれの思いの行き違い。ミスマッチがある。

■行き違い、ミスマッチの原因

- 新城のまちの実際から考える。新城のよさ、強みを活かす。
- 市民からの希望、思いが基点

5. 行政

- ・人々が動き出すための最初の推進力
- ・新しい役割があるのでは

■協働型行政という視点

- 新城のまちの実際から考える。新城のよさ、強みを活かす。
- 市民からの希望、思いが基点

6. 自治を創造する仕組み

- ・情報共有・情報活用
- ・参加の仕組み（住民投票も含む）

■基本的考え方（背骨が大事）

- 新城のまちの実際から考える。新城のよさ、強みを活かす。
- 市民からの希望、思いが基点
- 現状の不足もポイント

7. 条例をよりよく活かすための（機能させる）仕組み

■つくって終わりではない。むしろ、不断の改革。そのための仕組み。

8. その他, $+\alpha$ など